



第二特集 議会から「市民が主役のまちづくり」

期待を集めたけれど……

2009年、マニフェストに「市民が主役のまちづくり」と高らかに掲げた若者が市長に立候補しました。多くの市民が期待し、私も大いに期待しました。そして、33歳の若い市長が誕生しました。ところで、「市民が主役」という実感はありますか？ みなさん、どう感じていますか？ 「役人が主役」のまちづくり？



象徴的なのが2/4に発表された『施設配置適正化計画 ～公共施設の将来構想～』です。小学校9校、コミセン4ヶ所、保育園11園、青少年会館・はまゆう会館をリストラ。幼稚園に至っては全廃。その一方、役人が働く市役所や行政センターは一切減らさない。そんな、リストラ計画となっています。



市民に身近なこういう施設を、将来どうしていくか？ これって、まさに「まちづくり」そのものです。ところで、誰かこの計画づくりに関わった人はいますか？ そうです、市民は誰一人関わっていません。それどころか市民代表である議員すら誰一人関わっていません。役人だけで作り上げ、決定してしまったのです。

その計画、ちょっと待った！

「地域運営協議会」は何のため？ 市長は、マニフェストに「地域住民によるまちづくりを行う地域運営協議会の設置を検討」と掲げていました。公約どおり彼は何度も議会に提案し続け、実現させました。これ自体は評価します。でも、だったら「地元の公共施設をどうするか？」は、この協議会に任せればよかったはず。そうすれば、彼の評価も上がったのに……



市長に期待してもダメ。議会こそ市民代表。でも、市長を責めても仕方ないのかもしれませんが。結局のところ市長がチェンジすれば何でも変わるわけじゃない。

市長というのは、あくまで役人のトップです。同時に、名誉職的な仕事も多い。海外では名誉職の市長と実務担当(シティ・マネージャー)の2人体制の市町村も多いですが、横須賀はそうになってない。そもそも、市長ばかり注目されますが、役割分担はこうなります。

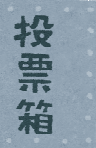
- 市長：執行者(予算編成権) 議会が決めた方向に沿ってやりくりする人
- 議会：決定者(議決権) 役所の進む方向と住民の意思を決める人

この意味では、議会こそ本来の「市民代表」です。

議会から、「市民が主役のまちづくり」を。議会が市民の声をよく聞いて、声をふまえて市役所を監督すれば、こんなに市民から不満が出るはずがないです。今回のリストラ計画でも、心ある議員たちが「いったん止めて、もっと市民の声を」と動いてきましたが、議会はまともませんでした。自分自身、悔しい思いでいっぱいです。

でも、はっきり言います。役人は市長をナメていて、やるべきことをやらせない。そして、議会もナメられている。要するに、市民がナメられていると思います。

4月26日には市議会議員選挙があります。このまちのオーナーである市民の意向に市役所を従わせる、強い意志を持った議員を、今こそ送り込むときです。



編集後記

今回は「見える化」特集でお伝えしました。振り返ってみれば、本当に「見える化」ばかりずっとやってきたな、と思います(笑)。●3.11 直後には「市内で最大5万人もの死傷者が出る」という国の震災津波予測を「見える化」して、「ただでさえ不安なのに怖がらせるな!」とお叱りを受けたこともあります。(4号) ●「横須賀市議会は議員定数も議員報酬も県内の一般市町村で No.1」ということも「見える化」し「高給取り!」と批判も受けました。(15号) ●市の不祥事も何度か「見える化」し、「外部に公表しなくても是正させれば別にいいじゃないか」と諭されたこともあります。(18号) でも、アツレキを生んでも、これが私の市民との約束です。やめるわけにはいきません。最後は、市民が判断する。そう信じています。

応援してください!

- チラシのポスティング
 - 駅でのチラシ手配り
 - ご自宅への看板設置
 - 学生インターン
- 常時、様々な手が必要です。「応援してあげてもいいよ」と思って下さった方は、お気軽にご連絡下さい。
- ※政治献金・寄付は頂いていません。

小林のぶゆきの基本政策

- 見える** 誰が何をどう決めるのかわかんない……。市政をガラス張りにして「見える化」し、意思決定の過程も含め情報公開を進めます。
 - わかる** 難しい説明をされてもよくわからない……。いま何が問題なのか、いま何が必要なのか。チラシなどを通してわかりやすくお伝えします。
 - 変わる** これまで何も変わらなかった。どうせ変わらない……。現状が見え、問題がわかれば、変えられます。私たちが払った税金が、私たちに本当に必要なことに使われるよう、変えていきます。
- 今こそ横須賀を 私たちのものに。

横須賀市政について、私の活動について、みなさまのご意見、ご提案、ご感想、疑問などお寄せください。必ず私、小林伸行が自分で目を通します!

☎070-6640-3927 info@kobayashinobuyuki.com Fax046-801-2177

隔月刊 小林のぶゆき

第19号 2015年2月発行号

見える わかる 変わる 今こそ横須賀を 私たちのものに

横須賀市議会議員 小林伸行の議会活動報告



発行人 小林伸行 小林のぶゆき 検索
住所 野比2-13-18
Fax 046-801-2177
移動事務所 ☎070-6640-3927
info@kobayashinobuyuki.com
Web http://kobayashinobuyuki.com
野比在住。昭和50年9月3日、福島県生。筑波大学卒。地域情報誌と環境コンサルティングに携わるが、地域の疲弊と日本の将来を憂い、政治を志す。政策秘書試験合格後、衆議院議員長島一由(前逗子市長)公設秘書として修行し、2011年4月より横須賀市議会議員。マニフェスト大賞でも3年連続で受賞するなど政策派として活躍

第一特集 「見える化」で実際に何が変わったか?

「見える化」で実際に何が変わったか? 全国では82%の中学校で給食があるのに横須賀は0%。その事実をチラシ2号で「見える化」。逗子・鎌倉・葉山・川崎の導入の動きも「見える化」。そして横須賀でも独自にアンケートを実施し、9割が賛成という市民ニーズを「見える化」してきました。見えたら、横須賀市民は黙ってはいませんでした。署名や要請などで議会・市長を動かし、中学校給食を実現せざるを得ない状況に追い込んでいます。

第二特集 議会から「市民が主役のまちづくり」

「見える化」はした。じゃあ、結果はどうだったか? それで横須賀は何か変わったのでしょうか? 事例その1:税金のムダ撲滅

第一特集 「見える化」で実際に何が変わったか?

4年前の約束。4年前、私は「横須賀市に市政リポーターを送り込みませんか?」と書いたチラシ1号を配りました。「これまで、市がどんな状況か見えなくて、市民がよくわからなかったから、変わらなかったんです。徹底的に『見える化』して市政をわかりやすくレポートします。一緒に横須賀を変えましょう」。そう訴えて、市議選で初当選しました。任期4年間、小林は約束を守ったのか?

当選後も、チラシで市政をレポートし続けて、今回で19号となりました。暑い日も寒い日も市内15カ所で手渡し、一軒一軒ポストに届け、これまで約30万部をお配りしてきました。「見える化」はした。じゃあ、結果はどうだったか? それで横須賀は何か変わったのでしょうか? 事例その1:税金のムダ撲滅

事例その2: 中学校給食

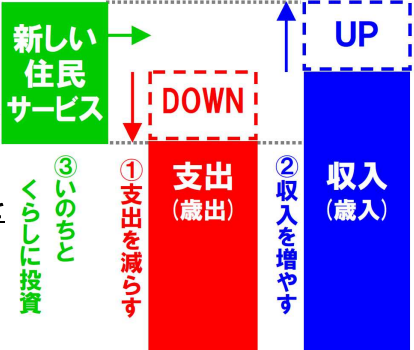
全国では82%の中学校で給食があるのに横須賀は0%。その事実をチラシ2号で「見える化」。逗子・鎌倉・葉山・川崎の導入の動きも「見える化」。そして横須賀でも独自にアンケートを実施し、9割が賛成という市民ニーズを「見える化」してきました。見えたら、横須賀市民は黙ってはいませんでした。署名や要請などで議会・市長を動かし、中学校給食を実現せざるを得ない状況に追い込んでいます。

事例その3: 事業チェックシートの公開

おカネのない横須賀市。何か新しいことをするには何かをやめなければいけない。そこで、役所内では事業一つ一つの「点検票」を作って見直しがされてきました。私は、そこに市民の目が入るよう「見える化」を提案。市政初で全1420もの点検票が公開されました。吉田市長ならではの評価すべき実績です。

「見える化」で何がしたいのか?

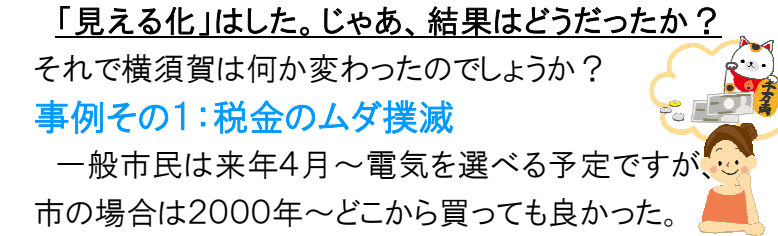
結局、「本当に今の税金の使い方いいのか?」ということなんだと思います。カネの使い方一つで子供の将来も人の命も左右する。それが市の仕事です。4年前も掲げた下の図が、やりたいことの基本です。「どこにムダがあるか?」「どこにニーズがあるか?」これからも「見える化」し続けます。小林のぶゆきと一緒に横須賀の未来を選んでください。



事例その1: 税金のムダ撲滅

一般市民は来年4月～電気を選ぶ予定ですが、市の場合は2000年～どこから買っても良かった。なのに市は一社独占で電気を言い値で買ってきた。そのことをチラシ第8号「隠れた随意契約に斬りこめ!」で「見える化」。ひとまず、全学校分が入札にかけられた結果、年間約4500万円も安くなりました。

またチラシ第7号でお伝えしたように、無料だった火葬料金を、他の市町村のように有料化することを提案。4年越しで採用され、来年4月から実現し年間約4700万円の収入増となります。



「見える化」はした。じゃあ、結果はどうだったか? それで横須賀は何か変わったのでしょうか? 事例その1:税金のムダ撲滅